

## まえがき

10年前の自分、20年前の自分に会いに行ける――。

もし神様がそんなチャンスを一度だけあなたに与えてくれたら、あなたはそのチャンスはどう使いますか。10年ないし20年間のさまざまな経験から学んだ、人生の知恵を過去の自分にアドバイスしてあげたい。「こうしたらもっと良くなるぞ」「こうすればもっと夢に近づけるよ」「幸せで充実した人生を送るには、こうするといいよ」。もしかすると、「当たり前馬券をそつと教えてあげたい」などという不謹慎な人もいるかもしれませんね。

しかし残念ながら神様は、そんな奇跡を私たちに許してくれません。

過去は変えられない。これは「人はいつか死ぬ」という人間の宿命とともに、人生というゲームに与えられたグラウンドルールです。

過去はたしかに変えられません。しかし未来ならいくらでも変えられますよ……な

んてことを私は言いたいわけではないのです。

むしろ、それと逆です。

未来もなかなか変えられません。

それが私たちの偽らざる現実です。なぜなら本文にも書いたように、私たちの脳は過去の延長線上に未来をつくる仕組みになっているからです。だから「昨日までの自分」も容易に変わりません。その、変えるのが非常に難しく、過去の延長になってしまいがちな未来を、自分の望むような、願うようなものに変える方法があるのです。しかもそれはどんな人にもできる、あきらめるぐらい簡単な方法です。その方法をこっそりあなたに伝えたくて、この本を書くことにしました。

「できるかも」

「やれるかも」

「幸せになれるかも」

私たちの脳の中には、常にいろいろな「かも」が発生しています。しかも、ものすごいスピードで大量に発生し、脳の中に居着いてしまいます。居着くだけでなく、この「かも」がとてつもなく大きな影響を未来におよぼすのです。

私たちが未来を変えられるかどうかは、この「かも」の使い方次第です。

過去の自分に会いに行き、経験という貴重な代償を支払って手に入れた知恵を、10年前、20年前の自分に届けることは私たちにはできません。けれどちょっと想像力を使えば、未来の自分に会いに行くことは可能です。はたしてそこには、どんな未来の自分がいるでしょうか。未来のあなたは、おそろしいことに今のあなたの脳に発生する「かも」の性質によって決まります。

この本でお話するのは、そんな「かも」の話です。

「かもの法則」に従えば、確実に未来が変わります。羽ばたいた「かも」の数だけ、どんどん変わります。イヤでも変わってしまうのです。

では、これから私と一緒に、あなたが望むような、また願うような未来をつくってくれる「かも」を見つけたる旅に出ることにしましょう。持ち物は何もありません。未来を変える勇氣、それだけを持って、さあ出発です。

まえがき 1

第1章

未来を決めていたのは  
「かも」だった

答えはいつも簡単なことの中にある 12

成功の要因は能力の差でも努力の違いでもない 13

人の心には二羽の「かも」が棲んでいる 14

第2章

「かも」は  
大不況をチャンスに変える

不吉な「かも」はどんどん凶暴化する 36

不況時こそ明るい新聞が必要である 40

新たな「プロジェクトX」の時代がやって来た 42

苦しいときは元気な「かも」を呼び寄せる 46

他人を守ると「かも」がツキとともに飛んで来る 47

第3章

心の「かも」は  
脳の中で闘っている

不況は客観的材料として置かれたものでしかない  
不況だから「かも」がワクワクさせてくれる 53

涙は夢の実現を後押ししてくれる 62

心には5種類のエネルギーがある 65

願望は実現せずに予感の実現する 68

金持ちも貧乏も「かも」の結果である 74

悪い「かも」が飛ぶと脳は努力を放棄する 78

未来のクオリアが「かも」の正体である 82

喜びの「かも」が実行力を呼び起こす 84

第4章

喜びの大きさで  
「かも」は成長する

キススキルで異性の心をつかむ 88

快・不快を判断する感情の脳を操る 91

明確な言葉で相手の気持ちを快にする 93

できるだけ「かも」は遠くまで飛ばしたい 97

遠くへ飛ぶ「かも」のほうが美しい 101

人との出会いも「かも」が決めている 103

人間の「かも」だけが未来をつくる 110

「かも」を使うと未来が現れてくる 113

やる気は「出せ!」と言われて出るものではない 116

第5章

期待が高まるとやる気は自然とあふれ出す 118  
自信や確信を求めると「かも」は死んでしまう 123  
喜びの「かも」が未来へのワクワク感をもたらす 128

マイナス思考でも  
「かも」は羽ばたける

経営に必要な能力も「かも」に支えられている 134  
外からの強力な「かも」が決断力を強める 137  
悪徳占い師には「かも」を確信に変える技術がある 139  
予知能力も「かも」の形でやって来る 144  
弱々しそうな「かも」でも十分に効き目がある 145  
危機管理の伴った「かも」こそが確信へと成長する 148

第6章

どんな大変革も  
小さな「かも」から始まる

努力にはすべき努力としてはいけない努力がある 153  
マイナス思考はそのまま放っておくに限る 155  
失敗したときは「どうしたらできるか」を考える 160  
「かも」を変えれば思考もプラスに転じる 163  
過去の成功があれば「かも」は簡単に書き換わる 165  
過去の失敗も「かも」は矛盾なく打ち消せる 169

ガリレオにも「かも」が飛んでいた 176  
行き詰まりは「かも」を飛ばす絶好の機会である 179  
豊田佐吉にも「かも」が飛んでいた 182

第  
**1**  
章

未来を決めていたのは  
「かも」だった

「かも」は「かも」によって殺される 186  
心理的限界は「かも」の違いでわかる 188  
限界を生む「かも」は過去に支配されている 191  
過去を超越するには意識的に「かも」をつくる 193  
根拠のない「かも」で未来は確実に変えられる 197  
現在のできない自分は未来の自分とは違う 200  
未来の自分は「かも」によって覆る 203  
子どもの天才的な「かも」は大きく育てる 206  
愛は脳を最高の状態にする 210  
自分たちの「かも」を一番高く遠くまで飛ばそう 213

## 答えはいつも簡単なことの中にある

多くの人は簡単なことをバカにしています。簡単なことより、難しいことのほうが重要であり、大事であるとなぜか思い込んでいます。

しかし私たちにとって本当に大切なのは、いつも簡単なことです。私たちが本当に必要とするものは、常にシンプルです。

たとえば、宇宙の法則はこのうえなくシンプルです。太陽のまわりを巡る惑星も、きわめて単純な軌跡を描いて運行していることを私たちは知っています。それを昔の天動説で説明しようとする、とんでもなく難しい理屈になってしまいます。

地球に近づいたり遠ざかったりする火星や金星の動きは謎だらけです。しかしガリレオによって証明された地動説なら、じつにシンプルに、あっけなく説明できてしまうのです。

これから私がお話するのも、びっくりするほど簡単な心の法則です。この、思いっきりシンプルで、あきれほどシンプルな法則を利用すれば、私たちは誰でも自分の心を

自由にコントロールし、思いのままに操れてしまうのです。

それを私は「**かもの法則**」と呼んでいます。

## 成功の要因は能力の差でも努力の違いでもない

人は誰でも真剣に、大真面目に生きています。一生懸命に生きていない人間など、一人としていません。「いや。そんな前向きなヤツばかりじゃない」とおっしゃる方もいるでしょう。「世間にはいい加減な人間、適当な人間、怠け者もたくさんいる」。

たしかにその通りです。しかし他人の目には「いい加減」「適当」「怠け者」「中途半端」と見える人も、その人なりに一生懸命に生きています。むしろそういう人ほど、そんな自分と格闘しながら懸命に生きています。

みんな一生懸命です。真剣です。

人間という動物は、まだまだ捨てたものではありません。

にもかかわらず、現実の人生はどうして大きく違ってしまうのか。幸せになれる人と、どうしてもなれない人がいるのはなぜなのか。自分の夢や目標を実現し、着実に

成功していく人と、どう頑張っても成功できない人とに分かれるのはなぜなのか。はつきり申しあげましょう。

それは能力の差でも、努力の違いでもありません。

私はそれを「**かもの違い**」と呼んでいます。自分の心をコントロールできるかできないか、自分の心を上手に操れるか操れないか——その違いだけなのです。

## 人の心には「羽の」かも「が棲んでゐる

この「かも」は、むろん鳥のカモではありません。マガモとカルガモのようなガンカモ目ガンカモ科の鳥ではなく、別の「かも」が私たちの心には棲んでいるのです。たとえば、日本ではもう10年連続で自殺者が3万人を超えています。しかしそのなかに、好きで自殺した人は一人もいません。人間にも自分の生命を最優先で維持しようとする生存本能がありますから、好きで命を絶った人はいないだろうと推測できません。間違いない彼らも心の底では、私たちと同じようにもっとたくましく生きたい、もっと幸せになりたい、いつか自分の夢をかなえたいと強く望んでいたはずです。

けれど自殺という、自分の望みとはまるで違う、真逆のことを行ってしまふ。なぜか行わずにいられなくなる。

この世に、これほどおそろしいことはありません。

人は、孤独な暮らしに耐えられないとか、いじめを逃れたいという理由で自殺するわけではないのです。病気が辛いから、借金が返せないからでもありません。その証拠に、もっと辛い病気と闘っている人が必ずいます。もっと大きな借金をかかえながら、「借金が苦しいのは、まだ返せる額だからだ。返せると思えないほど借金してしまえば、もう苦しくない」などと、平気で開き直る人間もいます。

人を自殺に追い込むのは、たった一つの「かも」なのです。

「このままでは、もう生きられないかもしれない」

「私の人生には、苦しみしかないの**かも**しれない」

「死んだほうがラク**かも**もしれない」

そんな不吉な予感がある日、ふと心に芽生える。自殺した人には間違はなく、そういう「かも」が生まれた瞬間があったはずです。

その予感がだんだん大きくなり、やがて「もうダメだ」「もう生きていられない」



という確信に育っていく。その人が持っていた、「もっと生きたい」「もっと幸せになりたい」という願望を裏切り、否定しようとするこの「かも」が、いつの間にか心を支配し、本当は少しも望んでなどいない自殺というものへ、その人を駆り立ててしまうのです。

こういう「かも」を私は「否定的なかも」と呼んでいます。

昔の人は、タカや網を使って鳥のカモを狩りました。今は猟銃を用います。しかしここでは、人間が狩るものではありません。

私たちの脳に発生する「否定的なかも」のほうですが、私たちを駆り立てて、私たちの望まない人生へ、願わない結果へと人を追いやるのです。

・成功したい。でも、できないかも

・夢をかなえたい。でも、かなわないかも

・もっと儲けたい。でも、この不況では会社がつぶれるかも

・彼女と付き合いたい。でも、嫌われるかも

残念なことに私たちの脳は、「したい」という願望のほうではなく、この「かも」のほうを実現してしまう仕組みになっています。

けれど、安心してください。みなさんの心にいるのは、「否定的なかも」だけではありません。人に不幸や悩み、悲しみをもたらす「かも」がいれば、その逆に、幸せな未来やツキを運んで来る「肯定的なかも」もいます。

「かも」が背負って来るのはネギではなく、私たちの未来です。

## すべてのめざしめは「かも」から始まる

ある大成功者はこう言っています。

「失敗の多くは、成功するまでにあきらめてしまうところに、原因があるように思われる。最後の最後まで、あきらめてはいけないのである」

成功したければ、成功するまであきらめなければよい。バカバカしいぐらい簡単な理屈ですが、これが松下幸之助という大成功者の成功哲学です。成功できないのは途中であきらめるからであり、最後の最後まであきらめなければ成功する――。

幸之助さんは、成功したからこんなことが言えたんだと思うのは違います。成功したから「あきらめるな」と言えたのではなく、あきらめなかったから、また「あきら

めるな」と自分に言い続けたからこそ、成功できたのです。

あきらめるな。

困難に出会っても、最後まであきらめるな。

念のために申しあげておきますが、私がこれからお話したいのは精神論ではありません。現実より意志や願望のほうが強いとする精神論ではなく、脳の仕組みの話です。

たとえば、ものが順調なときにあきらめる人は、まずいません。当然ですね。

人があきらめるのは、たいてい何かの困難に遭遇したときです。

しかしそれは、目の前に立ちはだかる困難が、もう自分には乗り越えられないほど大きいからではありません。幸之助さんのこの言葉は、「乗り越えられないほど大きな困難はないよ」と言っています。

にもかかわらず、人はなぜあきらめてしまうのか。

意志や願望を否定する「かも」が、心に飛来するからです。

・もしかしたら、できないかも

・ひよっとしたら、ムリかも

・やっぱり、うまくいかないかも

この「かも」には、どんなプラス思考も太刀打ちできません。思考ではなく、思考以前の予感だからです。無責任で、気まぐれな予感に過ぎないからです。

それはふっと、曇った空から舞い降りてきます。

その瞬間、私たちの脳は、自分の意志や願望とは無関係に、いえ自分の意志や願望に反して、まるで脳にあらかじめ組み込まれていたプログラムを実行するかのよう、自動的に、オートマティックに、動き始めるのです。

そのプログラムを、私は「**かもの呪い**」と名づけています。

どういうことかと言うと――

ふっと、「否定的なかも」がひらめく。と同時に私たちの脳は、その「かも」を否定なくイメージし、想像してしまう。これが鳥のカモなら、何の差し障りもありません。オシドリのおしゃれな姿を思い浮かべても、カルガモの親子が一列になってヨチヨチ歩くところをイメージしても、あなたの未来に何の変化もありません。

しかし人の脳に生まれる「かも」は、確実に人の未来を変えます。

無意識のうちに「否定的なかも」のイメージが羽ばたく。人間の脳は、現実とイメージを明確に区別できないので、その想像は記憶データとして脳に入力され、蓄積さ

れることとなります。それを繰り返すうちに、「できないかも」は「できないだろう」になり、さらに「きつとできない」になり、最後には「できっこない」へと昇格していく。「かも」に過ぎなかったものが、次第に強化され、成長し、やがて確信になるのです。

あきらめがやって来るのはそのときです。

人は、失敗したからあきらめるではありません。

「かも」の形で、失敗を予感するからあきらめるのです。

世間ではマイナス思考が諸悪の根源だ、幸せになれないのはポジティブシンキングができないからだという難しい論理が、いまだにまかり通っています。「難しい」と言ったのは、マイナス思考をプラス思考に変えたり、ネガティブシンキングの人が、ポジティブシンキングになろうとしたりしても、ほとんど不可能だからです。

変えるべきは「思考」ではありません。

「思考」以前に、私たちの脳に舞い降りてくるこの「かも」。その「かも」が、人生を変えるカギをくわえて――いや、握っているのです。

## あきらめを消すのも「かも」である

「私の仕事はすべて失敗の連続である。99%は失敗の連続であった。そして、その実を結んだ1%の成功が現在の私である」

本田宗一郎さんの言葉です。

「凄い！」と思わない人はないでしょう。99%の失敗を乗り越える、すさまじい意志力であり、途轍もない筋金入りの根性です。さすがに強靱なプラス思考の持ち主であり、とても私たち普通の人間、今月のノルマが達成されなかったり、上司やお客さんに叱られたりすると、たちまち落ち込んでしまうような人間が、到底真似できるどころではないぞと、思わずため息が出ます。

ついでに言っておくと、成功者の言葉が私たちに与えてくれる感動が、あまり長く続かなかつたり、すぐ忘れられたり、現実にはそれほど役立たないのには理由があります。松下幸之助や本田宗一郎のような人たちは、もともと自分たちとは「人間」が違うのだという、間違った思い込みが心のどこかにあるからです。

しかし「かもの法則」で考えると、ちょっと違った見方ができます。

先に、「人は失敗したからあきらめるのではなく、失敗を予感するからあきらめるのだ」と言いました。つまり、問題は失敗の数ではありません。宗一郎さんがおっしゃっているのは、何度失敗しても、そのたびに――

- ・次は成功するかも
- ・できるかも
- ・うまくいくかも

という「肯定的なかも」を飛ばせたということなのです。

私たちは宗一郎さんと違って、バイクも自動車もつくれません。でも、「かも」を飛ばすことぐらいはできそうです。「成功する」「絶対成功するはずだ」という、強靱なプラス思考、揺るぎないポジティブシンキングにはなれないかもしれないかもしれません。しかし無責任で気まぐれな「かも」なら、いつでも湧き出てきてくれそうです。

無責任な「かも」、それで十分なのです。

まず、「肯定的なかも」が飛び立つ。と同時に、否応なく私たちの脳にその「かも」のイメージが生まれます。「否定的なかも」と違うのは、否定的な想像は人から実行



力を奪いますが、肯定的な想像は、人を行動に駆り立てるといふことです。たとえば、パチンコ屋をのぞいてみてください。そこにいるのは、「リーチ」とか「大当たり」という、肯定的な声がどこからともなく聞こえてきて、矢も立てもたまらずやって来た人たちです。「今日こそ大当たりするかも」。連続大当たりになったときの喜びがよみがえってきます。人に行動力をつけるのは常に「肯定的なかも」です。「かも」を実現しようとする実行力が出てきます。もともとギャンブルの場合は、結果がパチンコ台やルーレットにゆだねられているので、たいていカモにされて終わるのですが……。

「肯定的なかも」は、行動によって検証され、確信に変わります。

多くの人は、その確信を最初に求めるから挫折するのです。

もちろん「肯定的なかも」さえいれば、すべてが順調にいくわけではありません。「失敗の連続だった」と宗一郎さんも言っています。世界の本田宗一郎さえそうなのです。しかしこの「かも」が、失敗を次の成功のために必要なプロセスに変えてくれるのです。それを私は「**かも**の魔法」と呼んでいます。失敗が単なる失敗でなく、成功の

ための検証となり、詰めとなり、発展となっていく。

・もつといい方法がある**かも**

・ここを改善すれば、もつと先まで行ける**かも**。明日はもつとうまくいく**かも**

これが「失敗の連続」という宗一郎さんの言葉の真意です。意志とか根性というのは、こういう「かも」の連続に付けられた名前に過ぎないのです。

なぜ「かも魔法」なのかおわかりでしょうか。

この「肯定的なかも」がいれば、悪いことも良いことに変わるので。

いくらプラス思考が大切と言っても、辛いことや苦しいこと、不幸や不運を前にして、人はやすやすとそれを受け入れたり、「これでいい」とは容易に考えられません。

しかし、「かも」ならいつでも飛ばせます。「この経験がいつか生きるかも」「これでいいのかも」「むしろツイているかも」。何事もそれが成功へのプロセス、幸せの材料に変わり得ることを教えてくれるのです。

## バカらしいほど簡単に未来は変えられる

世の中には、とんでもないことを言い出す人がいます。

その人は、「人生は苦しみに満ちている」とおっしゃいました。「生きることには苦しみであり、そもそも生まれたこと自体が苦しみなんだ」と言うのです。

広い世界にはいろいろなマイナス思考があります。しかし、これほど極端なものも少ないでしょう。途方もないマイナス思考です。

その人物——誰も避け得ない人生の苦しみを「四苦（生老病死）」と呼んで、その筆頭にこの世に生を受けたことを挙げたばかりか、こともあろうに「一切皆苦（すべては苦しみである）」などと言ったその人物が、仏教の開祖お釈迦様です。

お釈迦様は若き日、そういう人生の現実に打ちのめされ、絶望し、その苦しみから逃れようと、シャカ国の王子の身分を捨てて出家しました。その後7年間、過酷な苦行に身を投じます。

断食などに明け暮れるより、王子のままにいるほうがずっと苦ではないだろうと思

うのですが、そこが私などとは違うところなのでしょう。

ただ一つ確かなのは、お釈迦様もやはり「かも」を生きていたことです。

・この苦しみから逃れられるかも

・苦しみを逃れる方法があるかも

お釈迦様の額の真ん中には、白毫びやくごうと呼ばれる白い毛の塊がありますが、その下にある脳では、間違いなく「肯定的なかも」が羽ばたいていたはずです。

7年後、その「かも」が確信に変わるときがきます。このまま苦行を続けても何も変わらないと見きわめたお釈迦様は、苦行の森を出て、菩提樹の木の下で瞑想に入ります。そこでお釈迦様は、以降2500年にわたって大勢の人を苦しみから救い、人々の心に平安をもたらす悟りをひらくことになったのです。

苦しみは、悪いことではありません。「肯定的なかも」さえいれば、「一切皆苦」の絶望すら、大きな幸せへの強力なモチベーションになるのです。

今の日本にもいろいろな苦しみや悩み、不幸、不運がはびこっています。

毎年3万人もの自殺者がいる一方で、働くことも学ぶこともしない、できない、ニートと呼ばれる若者が60万人にもぼるそうです。定職を持たないフリーターは約2

00万人。これはどう考えても異常な社会です。また結婚しない、できない男女も、お釈迦様が聞いたら仰天するほど増えています。さらに新聞を開くと、信じられない凶悪犯罪のニュースが連日のように報じられ、その横では、不況による倒産や失業率の増加が、黒々とした大文字で「これでもか」とばかり人々の不安を煽っています。

私は宗教家ではないので、人々の苦しみを救おうなどと大それたことは考えません。私がこの本を書くのは、悩みを解決しようと悩むより、もっと簡単に幸せになる方法があると知っていたからです。「かもの法則」という、バカらしいぐらい簡単な法則を理解すれば、どんな問題もこれまでとは違った様相で見えてくるし、確実に違った未来が実現することをお伝えしたいのです。

「否定的なかも」を「肯定的なかも」に置き換える――。

それだけで間違いなく未来が違ってきます。

毎月のノルマで苦しんでいるサラリーマンの未来も、親の期待とコンプレックスに押しつぶされそうな劣等生の未来も、不況の波にのみ込まれそうな会社の未来も、また若い二人の未来も、もう若くない二人に待っている未来も、おそろしいぐらい変わってきます。

それというのも、「かもの法則」を上手に利用すれば、自分の心を自由にコントロールできて、思いのままに操れるからです。

未来をつくるのは私たちの心である。

幸福論・成功論の大前提を思い出してください。

人は病気や借金に苦しむのではなく、自分の心が思いのままにならないことに苦しむのです。この病気さえなければと思う心、借金に押しつぶされるといふ苦しい未来を想像してしまう心、売れる商品も売れなくしてしまう「この商品は売れないかも」を考える心、努力したいのになかなか努力させてくれない自分の心……に人は苦しむのです。

「苦」とは何かと問われて、お釈迦様は「自分の思い通りにならないことだ」と答えています。そして、みなさんも体験的によくおわかりのように、自分の心ほど思い通りにならないものはありません。

## ただ「かも」を置き換えるだけで本当に変わる

私はスポーツメンタルの世界で、もう30年以上も指導を続けてきました。

メンタルトレーニングの目的をひと言で言うなら、「自分の心を思い通りにコントロールすることです。その一語に尽きます。

プラス思考もポジティブシンキングも、同じところを目指しているはずですよ。いや、

あらゆる宗教、幸福論、成功哲学がそうであると言っているだけです。

ただ、その根っこにある「かも」が見逃されてきたのです。

たとえば、考え方の癖であるマイナス思考を、大人になってプラス思考に変えるのは至難のわざです。しかしマイナス思考の発端にある「否定的なかも」に気づけば、あきれるほど簡単です。「できないかも」「ムリかも」「うまくいかないかも」という望ましくない未来を運んで来る困った「かも」たちを、「できるかも」「チャンスかも」「うまくいくかも」という望ましい「かも」に変換するだけです。

松下幸之助さんも本田宗一郎さんもそれをしただけです。

困難を前にして、「否定的なかも」が鳴き出さない脳などどこを探してもありません。「できないかも」「ダメかも」「うまくいかないかも」は、誰の脳にも必ず発生します。その「かも」を置き換えるのです。

しよせん「かも」に過ぎません。無責任で、いい加減な「かも」ですから、信じたり、思い込んだりする必要はありません。「ウソのかも」でいいのです。ウソでもでたらめでも、私たちの脳はその「かも」を追って動き出します。

古くから行われてきた鴨猟に、オトリを使って呼び寄せる方法があるそうです。まだ空が明けきらない朝早く、「デコイ」という木彫りのカモを池に浮かべておくと、仲間とカン違いした本物のカモが集まってきます。それを鉄砲で撃つのです。

無傷でカモを捕獲する場合は、訓練したアヒルを使います。カモが集まる場所にアヒルを放つ。すると信じやすいカモたちは、そのアヒルの後をスイスイついていく。それを水路に誘導させて網を打ちます。

どういう習性でそうなるかは知りませんが、カモはやつぱり引っかけやすいのです。ダミーでも偽物でもすぐ集まってきます。

じつは脳内の「かも」も同じです。「ウソのかも」であつても、それを脳に一度発

生させれば、次々と本物の「かも」たちが飛んでくるのです。

ですから――

法則 **「否定の「かも」が発生したら、肯定の「かも」に置き換えればいい。」**

これが「かもの法則」です。簡単でしょう。恥ずかしいぐらい簡単です。

しかしその簡単なことが、あなたの未来を確実に変えます。

\* \* \*

さて、この本で私が言いたいのは、およそ以上のようなことです。すでに、あらたしやべつてしまいました。「よし、わかった」。そう思う人がいたら、もう本を閉じていただいてけっこうです。

どうせここから後のページは、手を変え、品を変えながら、ここで述べたことを繰り返すだけです。何しろ一番簡単で、シンプルな方法ですから、お話することも、じつはそれほどありません。そんなものをだらだら読むより、今すぐこの本を放り出し、

肯定の「かも」を実践してください。

本は開かれるためではなく、閉じられるためにあります。

しかし、「まだ読みたい」「もっと読みたい」という困った人がいるかもしれませんね。そういう方は、仕方ありません、次のページをめくってください。

## 第2章

「かも」は  
大不況をチャンスに変える